

保育かながわ

発行所

横浜市神奈川区沢渡4の2

一般社団法人

神奈川県保育会

発行人

萩原敬三

題字

故内山岩太郎筆



「子育てするなら神奈川」の実現に向けて

神奈川県子どもみらい担当局長 丸山 尚子

を精力的に行つてきた結果、

て年三回目の県独自地域限定

本年四月一日現在で、保育所等の定員は、前年度よりも七千三百五十一人に増加しましたが、待機児童数は七百五十六人と、七年ぶりに増加しました。これは、保育所の利用申込率が、現在の集計方法どもたちや子育て家庭への支援に御尽力を賜るとともに、本県の保育行政の推進に多大なお力添えをいただき、厚くお礼申し上げます。

近年、保育をめぐる環境は劇的に変わっています。保育所に求められる役割が飛躍的に大きくなり、これまでにも増して保育の現場に注目が集まっており、子育て支援は、まさに国を挙げて取り組む最重要課題となっています。中でも、待機児童の解消は喫緊の課題です。これまで市町村と協力して、保育所等の整備

には、日ごろから神奈川の子どもたちや子育て家庭への支援に御尽力を賜るとともに、本県の保育行政の推進に多大なお力添えをいただき、厚くお礼申し上げます。

保育士試験を実施します。実技試験を実技講習に替えるなど工夫もし、本県の保育士不足の解消の一助になることを期待しています。さらに、保育士を確保するためには、現場で働く保育士の労働環境の改善も必要です。そこで、県では、保育士に自らの仕事に誇りと意欲を持つていただけるよう、キャリアアップの仕組みを構築します。具体的には、本年度から保育エキスパート制度を導入し、国の待遇改善等の加算と連動させることで、キャリアアップが賃金改悪につながる仕組みとします。このように、今後も、保育士に長く働いていただける

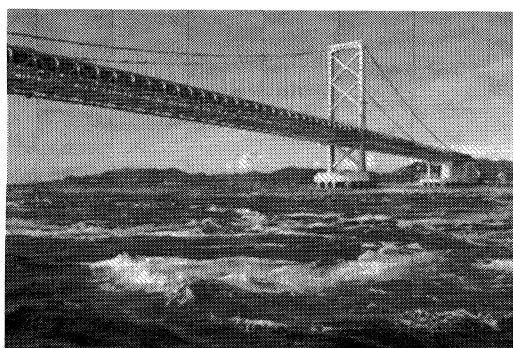
最後に「神奈川県保育会」のさらなる御発展と、会員の皆様のますますの御健勝と御活躍をお祈り申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

が目指す、「子どもが心豊かに生きいきと自分らしさや可能性を伸ばせる社会」、「子どもを安心して生み育てることができる社会」、「すべての子どもの育ちや子育て家庭をみんなで応援する社会」を目指し、「子育てするなら神奈川」の実現に向けて取り組んで参ります。もとより、こうした取組みは、県だけでできるものではありません。保育の現場におられる皆様や市町村と手を携えて、しっかりと進めていきたいと考えておりますので、今後とも御理解・御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

とともに「かながわ保育士・保育所支援センター」を設置

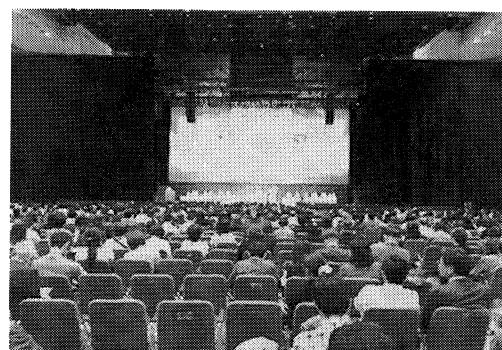
し、保育士として職場復帰を目指す方への支援に力を入れており、平成二十六年一月の開所から、平成二十八年度末までに四百四十五人の保育士が就職しました。今後も「かながわ子どもみらいプラン」が目指す、「子どもが心豊かに生きいきと自分らしさや可能性を伸ばせる社会」、「子どもを安心して生み育てることができ

第60回 全国保育研究大会 徳島大会



事前にネットで地元から現地までの直線距離を測ると約四百五十キロ。ちなみに陸路での距離を測ると約八百二十キロ。所要時間は約六時間。

迷うことなく約一時間の空路を選びました。直線距離は近いことから、離陸後すぐに着陸したかのような錯覚を覚えましたが、離陸して三浦半島を横切り、湘南海岸上空を行。まさに我が街 神奈川県を3Dのグーグルマップで見ているような機窓風景と富士山や浜名湖なども上空から見物したこともあり、気分的にもすぐに着いたと感じられたのですと思えました。



そんな遠そうで近かい四国にある徳島県において、記念すべき第六十回の全国保育研究大会が平成二十八年十月十二日から十四日にかけて徳島市の「アステイとくしま」を主会場とし、全国より約千四百名、神奈川県からは二十四名が参加し盛大に開催されました。

徳島と言えば「うずしお」「阿波踊り」が有名ですが、お遍路の四国八十八ヶ所の一番札所である靈山寺があるのも徳島県と言うことを現地に行き知りました。残念ながらその全ては時季や時間の関係で味わうことは出来ませんでした。

「阿波踊り」が有名ですが、お遍路の四国八十八ヶ所の一一番札所である靈山寺があるのも徳島県と言ふことを現地に行き知りました。残念ながらその全ては時季や時間の関係で味わうことは出来ませんでした。

その徳島大会の初日は、オーピニングとその後に式典が催され、開催地保育協議会会長のあいさつ、児童憲章の朗読、物故者への黙祷。主催者である全保協会長などからのあいさつの後、来賓者からの祝辞などがありました。

続いて表彰が行われ、会長特別感謝を含め全国で二百七十七名の方が表彰され、神奈川県からは五名の方々が栄誉ある会長表彰を受けてその功績が称えられました。式典の最後に大会宣言が読み上げられ、参加者の熱い拍手により採択され開会式が滞りなく終了致しました。

その後、厚労省雇用均等・児童家庭局保育課より保育行政の動向と課題についてと題しての行政説明と全保協会長より全保協の取り組みなどの基調報告がなされ一日目が終了致しました。

二日目は少し肌寒い曇り空の中、全十一の分科会を五会場に分け、各会場で熱心な研究発表などが行われました。今年は、関プロが神奈川県で行われた関係もあり、本県からの発表の選出はありませんでしたが、関プロで選出された六県市の方々が各会場で発表されました。

最終日の三日目は、前日同様の曇り空の中、記念講演と次回開催地のあいさつが行われました。次回、第六十一回大会は、兵庫県神戸市で平成二十九年十一月十五日から三日間の日程です。B級グルメも多数あるとPVで紹介がありましたが、来年は本場の明石焼きを味わうことを夢見ながら、全ての日程が終了した会場を早々と後にしました。



のだろうと思ふと起つと、四年前に九十七才で他界した九州の祖母の背中だったように思ひます。戦後の貧しい中で、子沢山の家族は何となく、テレビドラマの「おしん」に似たものがあります。祖母は八人の子どもを産み育て、孫は二十四人になります。仕事で忙しい親に代わり、朝夕、土日祭日、春、夏、冬休みは、その孫達や、近所の子ども達の世話を追われる日々でした。物がなかつた時代、祖母は、稼業のたばこ農家の傍ら、おやつを大量に作り、自家野菜や手作りの調味料で食事を作ってくれました。正に食育を地で行つていたと思います。孫の中でも年上だった私は、学園が休みになると、当然のようにその子ども達の保母さん役をしなければなりません。その情景からは絵本の「カラスのパン屋さん」を想像できます。私の子どもの頃は野山を駆け回り、日没とともに帰ると、家の手伝いが待つていました。小さい子の世話をもよおしました。小さな生活の一部でしたが

時代でしようか、それを苦と思ひませんでした。

高校生になり進路を決めなければならなくなつた訳ですが、両親は地元での就職を希望していた様です。私は、両親に自分が保育の仕事を目指したいことを伝え、進学のために上京しました。今思うと、

両親は私を都会へ出す事に対しどれだけ心配だつたろうと、今更ながら頭が下がります。

初めてのクラスは四歳児でした。二十七人、今でも一人ひとりの顔が浮かびます。新任の頃は、日々一杯一杯で行き詰まる事も多々ありました。発達障害のお子さんもクラスにいました。未熟で何のアドバイスも出来ず、今思い出しは申し訳ないという気持ちになります。駆け出しの私を助けるように一番小さいい子ちゃんという子が、K君のお世話を良く手伝ってくれました。とても優しい子でした。

どもの保育、家庭での育児のは運動会があり、全国の中でも運営も担う時代になり、保育園は益々役割が重く専門性も高いていました。大きい行事であり、当番の市町村は大変でしたが、県内各地から保育士の方々が集まり汗を流し交流を深める事は有意義な行事でした。綱引きの後の筋肉痛を

思い出します。

結婚後は家庭に入り、十三年程の専業主婦を経て、保育の道に復帰し現在に至り、今まで、行き詰まる事は何度もありますが、時には田舎に帰省し自然の中にどっぷり浸つたり、近隣の山々にも、リセツトしに出掛けます。そして日々、子ども達の純粋な笑顔や成長する姿に囲まれ、その中で生かされている自分を感じ、「ステキな仕事を選んだな、ヨシ!」と思えるのです。保育園のこの四十年でかなりの変化がありました。國家資格となり男性の保育士さんも増えました。保育時間の延長や、日祭日や夜間の保育を行う保育園も増えてきました。家庭環境や経済的な問題による支援、配慮を要する子

難しさから保育園で家庭的な役割も担う時代になり、保育園は益々役割が重く専門性も高められました。成元年に山王保育園の職員として、保育に従事させて頂き勤務した当初は、保育の内容や運営も解らず、毎日が勉強の日々でした。そのような中で、園長である親父や諸先生方の指導のもと、保育者としての心構えや保育の大切さを教えて頂きました。平成十七年に山王保育園の園長に就任し、園長として保育園を経営・運営して行くに当たり、未来への責任ある保育所としての役割を着実に進めて行くにはどうしたら良いのかを、全職員と一年かけて議論をしました。そしてこの先の時代の変化で保育園を取り巻く環境はどうであつたとしても、山王保育園が進むべき道をはつきりと明確にし、園長と職員が確かな共通理解のもとに一体となつて進んでいくこと。保育園も組織である以上、目標

この度は、「全国保育協議会会長表彰」を受賞させて頂きました。ありがとうございました。大きな行事で、園長としての責任ある保育所としての心構えや保育の大切さを教えて頂きました。今年で二十七年を迎えました。勤務した当初は、保育の内容や運営も解らず、毎日が勉強の日々でした。そのような中で、園長である親父や諸先生方の指導のもと、保育者としての心構えや保育の大切さを教えて頂きました。平成十七年に山王保育園の園長に就任し、園長として保育園を経営・運営して行くに当たり、未来への責任ある保育所としての役割を着実に進めて行くにはどうしたら良いのかを、全職員と一年かけて議論をしました。そしてこの先の時代の変化で保育園を取り巻く環境はどうであつたとしても、山王保育園が進むべき道をはつきりと明確にし、園長と職員が確かな共通理解のもとに一体となつて進んでいくこと。保育園も組織である以上、目標

山王保育園

都築類道

や方針・ビジョンに向かって歩むことで存続し、発展を成し遂げていくこと。また、子どもの人格が形成される、とても大切な時期を過ごす保育園だからこそ、しっかりと役割意識と使命感を持つて保育にあたり、子ども達や保護者の皆様と共に成長し、より良い社会づくりに貢献して行くこと。そして全職員で共に実現するための「園のビジョン」に沿って保育を運営しています。十年前に投げかけたことを職員が真剣に議論をしてくれたことで、園全体の向上・発展へと繋がっています。これからも、次代を担う子ども達の健やかな育ちのために、職員と共に成長して行けたらと思います。

西久保保育園

原田由美

穏やかな四季・優しい自然に包まれた茅ヶ崎市の中でも、海でもなく山でもなく、のどかに広がる田園風景とともに

ちょっととした地元言葉で皆が挨拶を交わすような、そんな昔ながらの地に日々私が過ごす保育園があります。私が保育職に就いた頃は時代・価値觀が今とは違ったということもありますが、「せつせと働き・自分達の力で頑張り・人様の迷惑にならない」というような風土でしたので今日までとなつた保育園の必要性には当時は考えも及びませんでした。他にも、周囲に幼稚園はありましたが保育園は無く、環境的にも「保育に欠ける…」という認識が起きづらかったかもしれません。そんな地域で表面化してきた『保育』の需要に応え、困っている人のためとの精神で昭和五十五年社会福祉法人立として当園は開園致しましたが、保育二年が期待される現在でも、初代園長の思いを礎にし、地域との繋がりを大切にし、地域からも大切に思われる保育園を目指し続けているところです。

さて、若かりし頃を思い返してみると、今なら考え込む人にとっては大変高いハードルに思え、一人で足踏みを続けたり転んで痛い思いを繰り返していましたように思います。そんな苦しみや悲しみ、笑いも生じた。他にも、仲間達との生活の中にありました。仲間達との生活の中には、友達同士育ち合い成長する姿に喜び、子どもの発見の言葉に大笑いし、記録に胃が痛むほど迷い、行事への期待と不安が主役の子ども達よりも大きかつたような、メリハリのある毎日を送っていましたように思い出されます。その後主任を任せられた二十三年間は責任の幅が広がり、子ども達へ

のないように思い出されます。また、他機関の方々とも関わる機会が増え、支援への考え方・各機関の役割など視野を広げました。現在は園長の職に就いて五年目となります。立場により果たす役割・負う責任の違いを実感しながら、また、周りの仲間の支えや保護者の優しさに助けられながら日々の課題に向き合っているところです。依然力不足の私にもやがて直ぐに瞳に向けて話を聴いてくれ、笑顔で園庭をはしゃぎ走り回る子ども達の姿に励まされ、新たに保育園に望まれる役割や薄れさせずに持ち続けたい保育の心について、法人園の皆と考えていきたいと思つております。

この度会長表彰を賜ることができましたのも、これまでの指導頂き気長に見守つて下さった諸先輩方と、暖かく・明るく・信頼できる仲間に長じたつて参りました。時代の急速な展開前ではありましたが、指針の改正等で園内の皆で勉強しあつたことが最近のことです。春には子ども達と一緒に花束や冠を作つたり、走り回つたり、寝転んで空を見上げたり、寝転んで散歩に出かけ、花束や冠を頂けたと思っておりま

す。春には子ども達と一緒に花束や冠を頂けたと思っておりました。春には子ども達と一緒に花束や冠を作つたり、走り回つたり、寝転んで空を見上げたり、寝転んで散歩に出かけ、花束や冠を頂けたと思っておりま

す。春には子ども達と一緒に花束や冠を作つたり、走り回つたり、寝転んで空を見上げたり、寝転んで散歩に出かけ、花束や冠を頂けたと思っておりま

す。春には子ども達と一緒に花束や冠を作つたり、走り回つたり、寝転んで空を見上げたり、寝転んで散歩に出かけ、花束や冠を頂けたと思っておりま

す。春には子ども達と一緒に花束や冠を作つたり、走り回つたり、寝転んで空を見上げたり、寝転んで散歩に出かけ、花束や冠を頂けたと思っておりま

愛川町立田代保育園

山田早苗

「この度は全国保育協議会会長表彰をいただきありがとうございました。四十年足らずではありますが振り返ってみると、長かつたような短かつたような不思議な気持ちになります。

保育の思い出は、数えきれないほどあり、嬉しかったこと、楽しかったことが次々に浮かんできます。勿論苦しかったことや辛かつたこともありました、が、子どもたちのかなりましたが、子のいい笑顔を思い出すとき、暖かい気持ちになつていきま

一年目の四月初日、園長先生に部屋一面の窓ガラスにクラス名の絵を描くよう言われ、大きなバラの絵を妖精とともに描いたのを思い出しました。それが最初の仕事でした。園長先生はびっくりしたと同時に誉めてくださったのを覚えています。

そして入園式の翌日の事、病気で髪の毛がなく帽子を被つたままの子がいました。表

情は暗く恥ずかしい様子でした。年長と一緒に受け持つた先輩の先生は、みんなの前にその子を立たせ、パッと帽子を取り、「みんなこの子を笑いますか？薬を飲んでいるのですか？」と聞きました。子どもたちもたちは息をのみシーンとなりましたが、次々にみんなそう言い出し、その子は次の日から、帽子を取つて元気に過ごすことが出来ました。先輩の先生の判断力に感服し、今も心に残っています。

二年目は一人で年長二十八人を受け持ちました。子どもと一緒に遊ぶのは得意でしたがクラスをまとめていくことの難しさに苦しみました。作品展の共同製作では子どもたちが思うように進めてくれず困ってしまいました。すると園長先生は「子どもの生活には遊びだけではなく、仕事をするということもあるんだよ」と教えてくれました。一つの目標に向かってやるべき」と

情は暗く恥ずかしい様子でした。年長と一緒に受け持つた先輩の先生は、みんなの前にその子を立たせ、ぱッと帽子を取り、「みんなこの子を笑いますか? 薬を飲んでいるので髪の毛が生えません。笑いますか?」と聞きました。子どもたちは息をのみシーンとなりましたが一人の子が「笑わないよ!」と大きな声で言うと、次々にみんなそう言い出し、その子は次の日から、帽子を取つて元気に過ごすことが出来ました。先輩の先生の判断力に感服し、今も心に残っています。

もう一度話し合い“夢の国”というテーマの作品を部屋中使つて作り上げることが出来ました。

三年目で別の園に異動になりました。三度目の年長の担任になり、そこでは子どもたちと毎日ドッジボールで盛り上がりました。勿論参加しないおとなしい子や目立たない子もいました。私は以前の自分が同じだったのとその子の気持ちがよく分かり、幼いころの先生が自分してくれたように、常に気にかけて話しかけました。少しづつ笑うようになりおしゃべりも増え、そしてついにドッジボールにも入るようになりました。手をつないで、嬉しそうに逃げる顔を今でも忘れられません。あきらめずに働きかけることの大切さは今も実践しています。

大好きな遊びの一つに“陣取り”があります。二チームに分かれて陣地を作り、相手チームの子の背中をタッチ

もう一度話し合い“夢の国”というテーマの作品を部屋中使つて作り上げることが出来ました。

三年目で別の園に異動になりました。三度目の年長の担任になり、そこでは子どもたちと毎日ドッジボールで盛り上がりました。勿論参加しないおとなしい子や目立たない子もいました。私は以前の自分が同じだったでの子の気持ちがよく分かり、幼いころの先生が自分してくれたように、常に気にかけて話しました。

するために戦いに行きます。タツチされると相手の陣に連れていかれ味方の助けを待ちます。二人以上になつたら手をつないでつながり、先頭の子の手に味方がタツチすればみんな逃げられます。自分の陣に戻れば命が復活するのです。この遊びは子どもの頃近くの仲間とよく遊んだあそびでした。家の前に広い空き地があつたので暗くなるまでよく遊んでいました。仲間が沢山捕まってしまったとき勇気を出して助けに行く・・・これが醍醐味でした。保育園の子どもゲームの中で助けられたりしながら、心も体も強くなり、毎日少しづつ成長していく姿が喜びでした。

第61回 全国保育研究大会(兵庫大会)

平成29年11月11～13日 主会場 ポートピアホール

祝 神奈川県茅ヶ崎市保育士会 内容研究会 選出

配慮を必要とする子どもや家庭への支援にむけて

～子どもの育ちと保護者への関わり～

「保育所等の健康研修会」

平成二十八年十一月一日、藤沢市民会館第一展示ホールにおいて、保育所等の健康研修会が開催されました。

講師には、かながわ健康財団・排泄機能指導士・健康運動指導士の高垣茂子先生に「ループエクササイズ&骨盤底筋運動ほか口コモ予防、肩こり予防」などをテーマに、講義と実技をしていただきました。

机を使わずに、講師の先生を中心扇状に椅子が並べられ、講義を聞きながら、合間に実技(体操やエクササイズ)を行う形式で行われました。

○おしつこのお話

まず、尿についてのお話で、■尿のできるまで ■排尿システム ■正常な排尿(尿意がはつきりわかること)。日中四～六回、三～四時間間隔で、一回三百cc前後の尿を勢いよく残さず出し切ることができる) ■膀胱の容量 ■尿失禁の種類等、項目ごとに説明。正常な排尿の大切なポイント

○パタカラ体操(脳の活性化)

パタカラ体操はお口の体操で、食べ物を上手にのどの奥まで運ぶ動作を鍛える、発音による運動です。「パ」「タ」「カ」「ラ」と発音することで、食べるためには必要な筋肉をトレーニングします。

注意することとして水分の取りすぎ。一回二百ccくらいにする。のどの渴きを感じる前に水分補給をする。のどの渴きは脱水の初期段階であることなどを教わりました。

筋を鍛えることが必要。又、筋を鍛えることとして水分の取りすぎ。一回二百ccくらいにする。のどの渴きを感じる前に水分補給をする。のどの渴きは脱水の初期段階である

中でとめることもでき、たまつていなくても出せることだそうです。その為には骨盤底筋を鍛えることが必要。又、筋を鍛えることとして水分の取りすぎ。一回二百ccくらい

○体のバランスを知る。

二人一組になり、一人は椅子に座る。もう一人は座っている人の後ろから、肩に肘を置くと座っている方は立てなくなる。また同様に前からおでこに手を置き頭を前に傾けられない様にすると立てなくなる。人は座っている状態から立とうとするとき頭を前に傾けないと立てないことを学ぶ。補足で、へその下にかかる手は離さずに、手の間をくぐつたり、くぐらせたりしながら、からまつた手をほどいていくと・・・円の内側を向いた人と外側を向いた人が交互に手をつなぐかたちの四人

本歩く基本を学びました。
①つま先を上げる。脛の筋肉
"前脛骨筋ぜんけいこつきん"。②つま先を下げる"下
腿三頭筋かたいさんとうきん"。かかとトントン。つま
先トントンなどのエクササイ



に変えると「ペー・パパ・ポープー」というようになります。これをタ行、カ行、ラ行と、順に行い二曲、皆で歌いました。ラジオ体操の歌では、原曲を聞きながら、体操も行いました。このように置き換えて歌うことで、脳の活性化や、肌のたるみの改善等の効果もあるそうです。

筋だいたいよんとうきん"腿の前の筋肉で鍛えると立つたり座つたりが楽になる。④膝をまげる腿の後ろの筋肉"ハムストリングス"。⑤脚を外に上げる"ちゅうでんきん"。⑥脚を後ろに上げる"大臣筋"。

途中休憩後は、椅子をホールの端に寄せ、中央に集まり、遊びながらできるエクササイズを行いました。

○グループ作業。

八人ずつグループをつくる。グループで円になり、まず正面で向き合っている二人が右手で手をつなぐ。左手は右隣の人と手をつなぐ。右となりの人は最初の二人と同じように手をつなぎ、全員が手をつなぎ終えたところで、つないだ手は離さずに、手の間をくぐつたり、くぐらせたりしながら、からまつた手をほどいていくと・・・円の内側を向いた人と外側を向いた人が交互に手をつなぐかたちの四人



最近の労災申請では、平地で転倒したという理由が一番多くなったそうです。そのよう転倒を防ぐため、立つ基

た題目は「ふじの山」と「ラジオ体操の歌」の一曲。例として、ふじの山の「あたまを雲の上に出し」の章節をパ

ずつのグルーパにわかれました。最後は、結んだ手を重ねる順番をランダムにして十六人のグループで行いました。結果は・・・三つの輪が複雑につながるグループ二つ。大きな輪が二つ繋がるグループが一つでした。

○排便、肩こり予防。

椅子をもとの位置にもどし、排便を促す、うんこ体操。の後は、指の体操。

六十cmリボンの真ん中にゴムを付けたものを二つ用意し、各右手と左手の中指に付け、両手を前に出す。三十cmになつた二本を指で手繰り寄せる運動。一本ずつ行なつてもよい。

一mの布輪。幅は3cm程度の物を使い肩のエクササイズ。両手の指を輪にかけ、左右にひいた状態で、両手を頭の上に左右に体をたおす。次は両手を下におろし、手の間から両足を通して後ろへ。さらに背中、頭を通して元の状態へ。簡単に作れる、このようなものがあると動きが運動することを学びました。

今回の健康研修では、人が楽しく健康的に生きていくために必要な基礎体力。立つ、歩く、つまづかない。健全な排尿、排便。どれも意識しなくて、不自由なく行なえていいことですが、今後自分が高齢になつても、末永く健康で楽しく暮らせるよう日頃から意識していきたいと思いました。ありがとうございます。

「保育園利用者相談室 第一回研修会」

平成二十九年一月二十三日(月)神奈川県民ホール大会議室において、県内から約七十名の保育園職員参加のもと、本年度第二回保育園利用者相談室の研修会が開催されました。

事例一 保護者が子どもを車で保育園に送る途中、急用があり、保護者は先に仕事場に向かつた。その間、子どもは車の中に放置され、重篤化した。保育園が確認をしていれば、このようなことが起きなかつたと批判。

事例二 卵アレルギーをもつている園児だが、火を通しあれば少しは食べることが出来る。但し、体調の悪い時は食べさせないという約束であつた。その日、当該園児は特に体調も悪くなかったため、火を通した卵が入つた給食を提供したところ、アレルギー症状を起こし、救急搬送された。曖昧な取り決めをしたことに対する医師からの叱責と、親からの責任問題。

事例三 外遊びに夢中で、八つのグループに分け、それぞれ用意された次の八つの事例を、一グループ二つの事例(事例と選択事例)について、対応策の検討を行いました。

事例四 新しい園児が多く入り、保育園に響くことがあります。それには、車で保育園に送る途中、急用があり、保護者は先に仕事場に向かつた。その間、子どもは車の中に放置され、重篤化した。保育園が確認をしていれば、このようなことが起きなかつたと批判。

事例五 かみつきや、ひつかきが起きた際の加害者、被害者双方の保護者に対する対応の不手際。

事例六 保育園で、文字や数字、英語等の教育的な取り組みに対する要望。

事例七 保護者の仕事が休みの際の保育に対する園と保護者との意見の相違。

事例八 日常保育での園児の声と送迎時の保護者のおしゃべりに対する近隣の苦情です。

事例九 各グループごとに報告して頂きました。その後、利用者相談室の第三者委員の社会福祉法人松林保育園理事長の小川晃先生、長井婦人会保育園長の宮田丈乃先生、神奈川県民生委員児童委員協議会理事の祖父江照男先生、社会福祉法人幸保園理事長の草光純二先生の各先生方からご講評を頂きました。

